

近畿厚生局長 殿

公立大学法人
和歌山県立医科
理事長 板倉

印

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|------|
| 研修医の人数 | 109人 |
|--------|------|

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数



| 職種 | 常勤 | 非常勤 | 合計 | 職種 | 員数 | 職種 | 員数 |
|-------|------|-----|--------|---------|-----|------------|-----|
| 医師 | 442人 | 18人 | 446.0人 | 看護補助者 | 31人 | 診療エックス線技師 | 1人 |
| 歯科医師 | 13人 | 0人 | 13.0人 | 理学療法士 | 13人 | 臨床検査技師 | 38人 |
| 薬剤師 | 32人 | 0人 | 32.0人 | 作業療法士 | 6人 | 臨床衛生検査技師 | 0人 |
| 保健師 | 2人 | 0人 | 2.0人 | 視能訓練士 | 2人 | その他 | 1人 |
| 助産師 | 27人 | 0人 | 27.0人 | 義肢装具士 | 0人 | あん摩マッサージ指圧 | 0人 |
| 看護師 | 615人 | 3人 | 616.2人 | 臨床工学技士 | 7人 | 医療社会事業従事者 | 4人 |
| 准看護師 | 10人 | 2人 | 11.4人 | 栄養士 | 0人 | その他の技術員 | 3人 |
| 歯科衛生士 | 1人 | 0人 | 1.0人 | 歯科技工士 | 2人 | 事務職員 | 61人 |
| 管理栄養士 | 5人 | 0人 | 5.0人 | 診療放射線技師 | 33人 | その他の職員 | 17人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|----------|-------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 658.0人 | 8.7人 | 666.8人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1,373.0人 | 85.1人 | 1,458.1人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 906.00剤 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|-----------|--|-------|---|
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾 患 名 | 取扱患者数 | 疾 患 名 | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病 | 17人 | ・膿疱性乾癬 | 4人 |
| ・多発性硬化症 | 20人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 1人 |
| ・重症筋無力症 | 26人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 13人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 101人 | ・重症急性膵炎 | 1人 |
| ・スモン | 0人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 0人 |
| ・再生不良性貧血 | 14人 | ・混合性結合組織病 | 10人 |
| ・サルコイドーシス | 15人 | ・原発性免疫不全症候群 | 2人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 15人 | ・特発性間質性肺炎 | 1人 |
| ・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 61人 | ・網膜色素変性症 | 1人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 10人 | ・プリオン病 | 0人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 1人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 0人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 48人 | ・神経線維腫症 | 6人 |
| ・大動脈炎症候群 | 10人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 0人 |
| ・ビュルガー病 | 2人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 1人 |
| ・天疱瘡 | 7人 | ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 0人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 28人 | ・ライソゾーム病 | 0人 |
| ・クローン病 | 25人 | ・副腎白質ジストロフィー | 0人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 0人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0人 |
| ・悪性関節リウマチ | 1人 | ・脊髄性筋萎縮症 | 1人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 317人 | ・球脊髄性筋萎縮症 | 0人 |
| ・アミロイドーシス | 0人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 4人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 51人 | ・肥大型心筋症 | 0人 |
| ・ハンチントン病 | 0人 | ・拘束型心筋症 | 0人 |
| ・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症) | 0人 | ・ミトコンドリア病 | 1人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 3人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 0人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 2人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 0人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | 9人 | ・黄色靭帯骨化症 | 1人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 1人 | ・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 2人 |

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額(千円) | 補助元又は委託元 |
|--|-----------|-------|--------|---------------|
| 揮発性麻酔薬に対する抗体の作成 | 畑 埜 義 雄 | 麻酔科 | 600 | 補委 日本学術振興会 |
| 糖尿病・高血圧モデルにおけるスタチンの血管内皮保護作用に及ぼす麻酔薬の影響 | 小 川 幸 志 | 麻酔科 | 1,170 | 補委 日本学術振興会 |
| ライブセルイメージングによる脳微小循環制御機構の解明と麻酔薬及び遺伝子治療の研究 | 木 下 浩 之 | 麻酔科 | 3,510 | 補委 日本学術振興会 |
| メタボリック症候群でのヒト血管ストレス機序解明と遺伝子治療および麻酔薬作用の研究 | 伊 良 波 浩 | 麻酔科 | 910 | 補委 日本学術振興会 |
| 遺伝子多型に基づいた麻酔中の血圧変動の予測 | 木 本 吉 紀 | 麻酔科 | 910 | 補委 日本学術振興会 |
| 星状細胞内カルシウム濃度振動性変化による脳血流調節機構の解明 | 中 畑 克 俊 | 麻酔科 | 2,210 | 補委 文部科学大臣 |
| 妊娠高血圧時脳微小血管の血流調節機構の解明と麻酔薬作用に関する研究 | 堂 城 真 友 子 | 麻酔科 | 1,170 | 補委 文部科学大臣 |
| 揮発性全身麻酔薬が動的心筋内微小灌流に与える効果に関する研究 | 根 来 孝 明 | 麻酔科 | 1,170 | 補委 文部科学大臣 |
| プロポフォール代謝における遺伝子多型の影響 | 時 永 泰 行 | 麻酔科 | 650 | 補委 文部科学大臣 |
| スタチン急性投与における内皮機能改善効果に及ぼす麻酔薬の影響 | 丹 下 和 晃 | 麻酔科 | 780 | 補委 文部科学大臣 |
| アストロサイトのカルシウムオシレーションに対する揮発性麻酔薬の影響 | 吉 村 聖 子 | 麻酔科 | 4,160 | 補委 文部科学大臣 |
| スタチンによる血管内皮傷害に対する急性期改善作用機序の解明 | 瀬 藤 容 子 | 麻酔科 | 1,950 | 補委 文部科学大臣 |
| 小児中耳炎の難治化の病態解明とウイルスと細菌の相互作用に関する研究 | 山 中 昇 | 耳鼻咽喉科 | 2,000 | 補委 文部科学省科学研究費 |
| 頭頸部癌における新しい転移関連遺伝子の検討と早期診断システムの開発 | 田 村 真 司 | 耳鼻咽喉科 | 1,600 | 補委 文部科学省科学研究費 |
| 母体免疫による乳幼児の易感染性の予防に関する研究 | 保 富 宗 城 | 耳鼻咽喉科 | 1,700 | 補委 文部科学省科学研究費 |
| 上気道感染症難治化へのインフルエンザ菌、溶連菌の細胞内侵入機序と治療に関する研究 | 戸 川 彰 久 | 耳鼻咽喉科 | 1,500 | 補委 文部科学省科学研究費 |
| 細菌のバイオフィーム形成が中耳炎の難治化に及ぼす影響と治療に関する研究 | 池 田 頼 彦 | 耳鼻咽喉科 | 1,300 | 補委 文部科学省科学研究費 |
| 難治性中耳炎におけるインフルエンザ菌のバイオフィーム形成に関する研究 | 竹 井 慎 | 耳鼻咽喉科 | 1,900 | 補委 文部科学省科学研究費 |

小計

18

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額(千円) | 補助元又は委託元 |
|---|-------|-------|--------|---------------------|
| 肺炎球菌表面抗原の解析と肺炎球菌の上気道粘膜定着阻止ワクチンの開発 | 酒井章博 | 耳鼻咽喉科 | 1,700 | 補委 文部科学省科学研究費 |
| 肺炎球菌性中耳炎における細菌のフェーズ変化と重症化病態の解明 | 上野ゆみ | 耳鼻咽喉科 | 1,600 | 補委 文部科学省科学研究費 |
| 中條-西村症候群の疾患概念の確立と病態解明へのアプローチ(研究代表者) | 古川福実 | 皮膚科 | 26,000 | 補委 厚生労働科学研究費 |
| フェノールのアポトーシス誘導能を利用した皮膚血管肉腫および上皮系腫瘍の治療の開発 | 古川福実 | 皮膚科 | 900 | 補委 日本学術振興会 |
| 中條-西村症候群の疾患概念の確立と病態解明へのアプローチ | 金澤伸雄 | 皮膚科 | 6,000 | 補委 厚生労働科学研究費 |
| NOD2シグナルの過剰活性化による肉芽腫形成モデルの検証 | 金澤伸雄 | 皮膚科 | 1,870 | 補委 日本学術振興会 |
| ループスエリテマトーデスの病態解明 | 吉益隆 | 皮膚科 | 1,980 | 補委 日本学術振興会 |
| Pyrin関連分子の血管内皮細胞における役割の解明と血管炎症候群 | 中村智之 | 皮膚科 | 1,650 | 補委 日本学術振興会 |
| 自己炎症性疾患制御因子Ttc7を中心とした高IgE値と皮膚炎発症についての研究 | 三木田直哉 | 皮膚科 | 550 | 補委 日本学術振興会 |
| International Scholarship Award | 李洪錦 | 皮膚科 | 300 | 補委 財団法人日本リディアオリリー協会 |
| 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究 | 吉田宗人 | 整形外科 | 10,000 | 補委 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 |
| 膝痛・腰痛・骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡研究 | 吉田宗人 | 整形外科 | 45,000 | 補委 厚生労働省長寿科学総合研究事業 |
| 腰痛の診断、治療に関する調査研究「腰部脊柱管狭窄症の診断・治療法の開発」 | 吉田宗人 | 整形外科 | 13,000 | 補委 厚生労働省長寿科学総合研究事業 |
| 脊髄損傷細胞死におけるG1uR2の関与について | 吉田宗人 | 整形外科 | 10,400 | 補委 日本学術振興会 |
| 高齢者運動器疾患予防対策事業に係る運動プログラム開発 | 吉田宗人 | 整形外科 | 15,000 | 補委 和歌山県知事仁坂吉伸 |
| 疼痛に対する生体反応 | 吉田宗人 | 整形外科 | 10,000 | 補委 和歌山県立医科大学 |
| 「消化器癌微小環境理論に立脚した新規免疫・ウイルス治療の開発」 | 山上裕機 | 第2外科 | 1,300 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「遺伝子発現プロファイリングを応用した肺癌に対する新規ペプチド免疫療法の開発」 | 山上裕機 | 第2外科 | 1,800 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「腫瘍組織における炎症反応制御を目的とした新しい分子標的免疫療法の開発」 | 岩橋誠 | 第2外科 | 650 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額(千円) | 補助元又は委託元 |
|--|--------|------|--------|-----------------------------|
| 「肝硬変合併肝切除術後に効果的な熱量補給を可能にする新組成脂肪乳剤の有用性」 | 瀧藤 克也 | 第2外科 | 1,040 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「スキルス胃癌に対するハイブリッド型機能分子搭載ウイルスによる新規治療開発」 | 中森 幹人 | 第2外科 | 1,040 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「消化器癌に対するTGF- β siRNA導入樹状細胞による新規免疫遺伝子治療の開発」 | 中村 公紀 | 第2外科 | 1,170 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「CEACAM1を分子標的とした大腸癌の新規分化誘導療法の開発」 | 横山 省三 | 第2外科 | 1,300 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「食道癌に対する癌抑制遺伝子NPRL2を用いた新規放射線治療の開発」 | 上田 健太郎 | 第2外科 | 780 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「肝虚血再灌流前後の肝組織内ハイドロキシラジカルのリアルタイム定量の臨床的意義」 | 内山 和久 | 第2外科 | 2,080 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「liche理論に基づく癌幹細胞ワクチンの療法の開発」 | 松田 健司 | 第2外科 | 1,820 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「肝硬変合併肝癌に対するSmad7遺伝子治療を応用した新規肝切除術の開発」 | 小澤 悟 | 第2外科 | 650 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「肝硬変に対する新規細胞遺伝子治療の開発」 | 上野 昌樹 | 第2外科 | 1,040 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「sm浸潤大腸癌治療戦略確立のための新規バイオマーカーの開発」 | 奥 喜全 | 第2外科 | 650 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「遺伝子発現プロファイリング解析を応用した新規肺癌治療戦略」 | 廣野 誠子 | 第2外科 | 1,170 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「ユビキチンプロテアソーム経路を応用した肺癌特異的新規樹状細胞癌ワクチン療法の開発」 | 尾島 敏康 | 第2外科 | 780 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「食道癌に対する新規TLR-9 agonistを併用した癌ワクチン療法の開発」 | 勝田 将裕 | 第2外科 | 1,040 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「遺伝子発現型腫瘍融解性ウイルスを用いた胃癌オーダーマイド治療の開発」 | 辻 俊明 | 第2外科 | 1,937 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「治癒切除不能進行胃癌に対する減量手術の意義に関する研究」 | 山上 裕機 | 第2外科 | 1,300 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 「消化器外科手術における合成吸収系使用の手術部位感染抑制効果に関する多施設共同並行群間無作為化比較試験」 | 山上 裕機 | 第2外科 | 300 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」 | 山上 裕機 | 第2外科 | 500 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 「腫瘍微小環境を考慮した難治性胃癌に対する腫瘍溶解型ウイルス療法の探索的開発」 | 中森 幹人 | 第2外科 | 3,000 | 補委 (財)武田科学振興財団平成21年度医学系研究奨励 |
| 「内臓脂肪型肥満患者における膵頭十二指腸切除術後呼吸器合併症減少の対策」 | 清水 敦史 | 第2外科 | 300 | 補委 第18回手術手技研究会 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額(千円) | 補助元又は委託元 |
|--|-------|-------|----------------|----------------------|
| 「臓器線維化と悪性腫瘍:上皮・間葉細胞の相互作用に関する基礎的臨床的研究」 | 山上裕機 | 第2外科 | 900 | 補委 特定研究助成プロジェクト |
| 「膵癌の抗癌剤感受性規定遺伝子の網羅的解析による新規分子標的療法の開発」 | 川井学 | 第2外科 | 200 | 補委 和歌山県立医科大学若手研究支援助成 |
| 「新生児長期静脈栄養に伴う肝障害予防を目的とした親組成脂肪乳剤の開発」 | 渡邊高士 | 第2外科 | 200 | 補委 和歌山県立医科大学若手研究支援助成 |
| 「消化器癌腫瘍局所におけるTh17制御を目的とした新規分子標的治療の開発」 | 飯田武 | 第2外科 | 200 | 補委 和歌山県立医科大学若手研究支援助成 |
| 糖尿病疾患関連遺伝子の同定と医療への応用 | 南條輝志男 | 第1内科 | 5,000 | 補委 文部科学省 |
| 2型糖尿病患者のQOL、血管合併症及び長期予後改善のための前向き研究(JDCStudy) | 南條輝志男 | 第1内科 | 500 | 補委 厚生労働省 |
| 糖尿病多発神経障害の臨床病期分類の確立と病期に基づいた治療ガイドラインの作成 | 佐々木秀行 | 第1内科 | 800 | 補委 厚生労働省 |
| 健康食品開発に関する生化学的データの取得と解析 | 佐々木秀行 | 第1内科 | 1,000 | 補委 和歌山県 |
| 気道炎症モニタリングの一般臨床応用化:新しい喘息管理目標に関する研究 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 | 26,000 (6,000) | 補委 厚生労働省 |
| COPD患者における日常生活活動性の定量評価法の確立に関する調査研究 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 | 4,500 | 補委 (独)環境再生保全機構 |
| 日本人脳モデル作成、MRIによる脳形成異常の統計解析、臨床応用 | 田村学 | 脳神経外科 | 650 | 補委 日本学術振興会 |
| 骨髄間質細胞の神経栄養効果と分化誘導作用と-そのメカニズムと再生医療への応用- | 中尾直之 | 脳神経外科 | 910 | 補委 日本学術振興会 |
| 糖尿病患者における心血管イベント発症に関する後ろ向きコホートに関する研究 | 岡村吉隆 | 第1外科 | 583 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 再発リスクに応じた適正な乳がん局所療法の確立に関する研究 | 尾浦正二 | 第1外科 | 1,100 | 補委 厚生労働省がん研究助成金 |
| 組織培養法を応用した肺癌多臓器転移モデルによる転移先臓器特異性決定遺伝子群の同定 | 吉益達也 | 第1外科 | 4,680 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 一酸化窒素合成酵素アイソザイムによる心筋虚血の改善 | 本田賢太郎 | 第1外科 | 2,210 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「消化器癌微小環境理論に立脚した新規免疫・ウイルス治療の開発」 | 山上裕機 | 第2外科 | 1,300 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「遺伝子発現プロファイリングを応用した膵癌に対する新規ペプチド免疫療法の開発」 | 山上裕機 | 第2外科 | 1,800 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「腫瘍組織における炎症反応制御を目的とした新しい分子標的免疫療法の開発」 | 岩橋誠 | 第2外科 | 650 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |

小計
18

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額(千円) | 補助元又は委託元 |
|--|-------|------|--------|-----------------------------|
| 「肝硬変合併肝切除術後に効果的な熱量補給を可能にする新組成脂肪乳剤の有用性」 | 瀧藤克也 | 第2外科 | 1,040 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「スキルス胃癌に対するハイブリッド型機能分子搭載ウイルスによる新規治療開発」 | 中森幹人 | 第2外科 | 1,040 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「消化器癌に対するTGF-β siRNA導入樹状細胞による新規免疫遺伝子治療の開発」 | 中村公紀 | 第2外科 | 1,170 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「CEACAM1を分子標的とした大腸癌の新規分化誘導療法の開発」 | 横山省三 | 第2外科 | 1,300 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「食道癌に対する癌抑制遺伝子NPRL2を用いた新規放射線治療の開発」 | 上田健太郎 | 第2外科 | 780 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「肝虚血再灌流前後の肝組織内ハイドロキシラジカルのリアルタイム定量の臨床的意義」 | 内山和久 | 第2外科 | 2,080 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「iNiche理論に基づく癌幹細胞ワクチンの療法の開発」 | 松田健司 | 第2外科 | 1,820 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「肝硬変合併肝癌に対するSmad7遺伝子治療を応用した新規肝切除術の開発」 | 小澤悟 | 第2外科 | 650 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「肝硬変に対する新規細胞遺伝子治療の開発」 | 上野昌樹 | 第2外科 | 1,040 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「sm浸潤大腸癌治療戦略確立のための新規バイオマーカーの開発」 | 奥喜全 | 第2外科 | 650 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「遺伝子発現プロファイリング解析を応用した新規降癌治療戦略」 | 廣野誠子 | 第2外科 | 1,170 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「ユビキチンプロテアソーム経路を応用した降癌特異的新規樹状細胞癌ワクチン療法の開発」 | 尾島敏康 | 第2外科 | 780 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「食道癌に対する新規TLR-9 agonistを併用した癌ワクチン療法の開発」 | 勝田将裕 | 第2外科 | 1,040 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「遺伝子発現型腫瘍融解性ウイルスを用いた胃癌オーダーメイド治療の開発」 | 辻俊明 | 第2外科 | 1,937 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 「治癒切除不能進行胃癌に対する減量手術の意義に関する研究」 | 山上裕機 | 第2外科 | 1,300 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 「消化器外科手術における合成吸収系使用の手術部位感染抑制効果に関する多施設共同並行群間無作為化比較試験」 | 山上裕機 | 第2外科 | 300 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」 | 山上裕機 | 第2外科 | 500 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 「腫瘍微小環境を考慮した難治性胃癌に対する腫瘍溶解型ウイルス療法の探索的開発」 | 中森幹人 | 第2外科 | 3,000 | 補委 (財)武田科学振興財団平成21年度医学系研究奨励 |
| 「内臓脂肪型肥満患者における脾頭十二指腸切除術後呼吸器合併症減少の対策」 | 清水敦史 | 第2外科 | 300 | 補委 第18回手術手技研究会 |

小計
19

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額(千円) | 補助元又は委託元 |
|--|-------|------------|--------|----------------------|
| 「臓器線維化と悪性腫瘍:上皮・間葉細胞の相互作用に関する基礎的臨床的研究」 | 山上裕機 | 第2外科 | 900 | 補委 特定研究助成プロジェクト |
| 「肺癌の抗癌剤感受性規定遺伝子の網羅的解析による新規分子標的療法の開発」 | 川井学 | 第2外科 | 200 | 補委 和歌山県立医科大学若手研究支援助成 |
| 「新生児長期静脈栄養に伴う肝障害予防を目的とした親組成脂肪乳剤の開発」 | 渡邊高士 | 第2外科 | 200 | 補委 和歌山県立医科大学若手研究支援助成 |
| 「消化器癌腫瘍局所におけるTh17制御を目的とした新規分子標的療法の開発」 | 飯田武 | 第2外科 | 200 | 補委 和歌山県立医科大学若手研究支援助成 |
| 「インテグリンによるSmad系の調節を標的とした眼線維化疾患の新規治療戦略の確立」 | 雑賀司珠也 | 眼科 | 1,430 | 補委 日本学術振興会 |
| 「難治性神経麻痺性角膜炎及びアルカリ外傷に対するTRPチャンネルを介した治療法開発」 | 岡田由香 | 眼科 | 1,300 | 補委 日本学術振興会 |
| 「網膜芽細胞腫に対する新治療法開発に関する研究」 | 宮崎賢一 | 眼科 | 1,170 | 補委 日本学術振興会 |
| 「斜視手術後の外眼筋および筋周囲組織瘢痕化に関する研究」 | 白井久美 | 眼科 | 1,560 | 補委 日本学術振興会 |
| 「Shh-ang-tie2を標的とした眼内血管新生疾患に対する新規治療戦略」 | 宮本武 | 眼科 | 1,170 | 補委 日本学術振興会 |
| 「遺伝子導入によるTGFBシグナル阻害を戦略とした角膜内皮障害の予防法の探索」 | 住岡孝吉 | 眼科 | 780 | 補委 日本学術振興会 |
| 「 $\alpha 9$ インテグリンリガンドを標的とした脈絡膜・網膜・角膜新生血管の新しい治療法」 | 藤田識人 | 眼科 | 910 | 補委 日本学術振興会 |
| 特発性造血障害に関する調査研究 | 中熊秀喜 | 輸血・血液疾患治療部 | 1,000 | 補委 厚生労働科学研究費補助金 |
| 発作性夜間ヘモグロビン尿症の関連の特発性造血障害の分子病態の解明 | 中熊秀喜 | 輸血・血液疾患治療部 | 1,950 | 補委 文部科学省科学研究費補助金 |
| 冠動脈プラーク不安定化における単球及び血管内皮前駆運動の関与と治療法の確立 | 今西敏雄 | 循環器内科 | 1,100 | 補委 日本学術振興会 |
| 過疎高齢化集落における高齢者の生きがいと地域の活性化～学生参加による介入モデルの検証～ | 上松右二 | 循環器内科 | 2,000 | 補委 大学等地域貢献促進事業 |
| 日本人における動脈硬化性大動脈弁膜疾患の発症・進展予防に関する研究 | 赤坂隆史 | 循環器内科 | 1,000 | 補委 厚生労働省 |
| 糖尿病患者における2Dスペックル・トラッキング運動負荷心エコー法と冠動脈CTを組み合わせた冠動脈疾患の非侵襲的早期診断法の確立と実際把握および治療介入効果の多施設共同前向き研究 | 赤坂隆史 | 循環器内科 | 500 | 補委 厚生労働省 |

小計
17
計
110

(注)1

国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----------------------------|---|------------|-------|
| 日本化学療法学会雑誌 | Tebipenem pivoxil細粒の小児耳鼻咽喉科領域感染症を対象とした非盲検非対照臨床試験(第Ⅱ試験) | 山中 昇 | 耳鼻咽喉科 |
| 口咽科 | 掌蹠膿疱症に対する扁桃摘出術の効果とその適応 | 藤原啓次 | 耳鼻咽喉科 |
| 日本鼻科学会誌 | 薬剤耐性菌による副鼻腔炎遷延化・難治化とその対策 | 保富宗城 | 耳鼻咽喉科 |
| 化学療法の領域 | 急性咽頭・扁桃炎を合併した小児急性中耳炎患者に対する clavulanic acid(CVA)/amoxicillin(AMPC)、1:14製剤の | 池田頼彦 | 耳鼻咽喉科 |
| 日本耳鼻咽喉科感染症研究会誌 | 急性中耳炎の難治化とインフルエンザ菌のバイオフィーム形成との関連に関する研究 | 竹井 慎 | 耳鼻咽喉科 |
| 日本耳鼻咽喉科感染症研究会誌 | 急性咽頭・扁桃炎における Haemophilus haemolyticus の検討 | 河野正充 | 耳鼻咽喉科 |
| J Infect Chemother. | Distribution of the prtF1 and prtF2 Gene (Encoding Fibronectin-Binding Protein F1 and F2) and the spe gene (Encoding the streptococcal pyrogenic exotoxins) in isolates of Group A Streptococci in Japan. | Hotomi M, | 耳鼻咽喉科 |
| Auris Nasus Larynx. | Nontypeable Haemophilus influenzae isolated from intractable acute otitis media internalized into cultured human epithelial cells. | Hotomi M, | 耳鼻咽喉科 |
| Diagn Microbiol Infect Dis. | Loss of erythromycin resistance genes from strains of Streptococcus pyogenes that have developed resistance to levofloxacin. | Billal DS | 耳鼻咽喉科 |
| Auris Nasus Larynx. | Formation of biofilm by Haemophilus influenzae isolated from pediatric intractable otitis media. | Moriyama S | 耳鼻咽喉科 |
| Lancet. | Intermittent preventive treatment with antimalarial drugs. | Billal DS | 耳鼻咽喉科 |
| Cancer Sci. | T-lymphocyte maturation-associated protein gene as a candidate metastasis suppressor for head and neck squamous cell carcinomas. | Beder LB | 耳鼻咽喉科 |
| Auris Nasus Larynx. | Pathogenic role of tonsillar lymphocytes in associated with HSP60/65 in Pustulosis palmaris et plantaris. | Hayashi M | 耳鼻咽喉科 |
| Eur J Pediatr. | Clinical and microbiological impact of human bocavirus on children with acute otitis media. | Beder LB | 耳鼻咽喉科 |
| 最新の疾患別治療マニュアル | アジスロマイシン高用量単回投与製剤の臨床評価 | 山中 昇 | 耳鼻咽喉科 |
| 日本小児感染症学会 | わが国における小児急性中耳炎の疾病負担と7価肺炎球菌結合型ワクチンの医療経済効果 | 山中 昇 | 耳鼻咽喉科 |
| 日本医事新報 | 耐性菌による耳鼻咽喉科感染症(Q&A) | 保富宗城 | 耳鼻咽喉科 |
| 治療 | 【患者さんの背景・病態で考える 薬の選び方・使い方のエッセンス】耳鼻咽喉 副鼻腔炎 | 保富宗城 | 耳鼻咽喉科 |

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|--|--|-----------------|---------|
| 日本耳鼻咽喉科感染症研究会誌 | 抗菌薬の正しい使い方 臨床の立場から | 保富宗城 | 耳鼻咽喉科 |
| Infection front | 耳鼻咽喉科領域感染症の最前線 急性喉頭蓋炎 | 戸川彰久 | 耳鼻咽喉科 |
| JOHNS | 予防医学からみた耳鼻咽喉科臨床 予防医学からみた多剤耐性菌 | 竹井 慎 | 耳鼻咽喉科 |
| ENTONI | 小児耳鼻咽喉科感染症におけるウイルス感染 | 小上真史 | 耳鼻咽喉科 |
| 咽頭・扁桃炎のマネジメント | 咽 頭 ・ 扁 桃 炎 の マ ネ ジ メ ン ト | 山中 昇 | 耳鼻咽喉科 |
| 急性中耳炎治療入門 | 急 性 中 耳 炎 治 療 入 門 | 山中 昇 | 耳鼻咽喉科 |
| 肺炎球菌ワクチンの新しい展開 | 肺 炎 球 菌 ワ ク チ ン の 新 し い 展 開 | 山中 昇 | 耳鼻咽喉科 |
| 皮膚疾患診療実践ガイド | 扁 桃 病 巣 検 査 | 藤原啓次 | 耳鼻咽喉科 |
| 口腔咽頭の臨床 | 急性扁桃炎、慢性扁桃炎・反復性扁桃炎 | 藤原啓次 | 耳鼻咽喉科 |
| 小児耳鼻咽喉科診療指針 | 反復性扁桃炎、7章小児口腔咽頭科 | 藤原啓次 | 耳鼻咽喉科 |
| Annals of the New York Academy of Sciences. 1173:552-556, 2009 | Race differences in immunogenetic features and photosensitivity of cutaneous lupus erythematosus from the aspect of Japanese studies | Fukumi Furukawa | 皮膚科 |
| Arch Dermatol Res 301: 111-115, 2009 | Ethnic differences of immunogenetic features and photosensitivity in cutaneous lupus erythematosus | Fukumi Furukawa | 皮膚科 |
| Autoimmune Rev 8:439-440, 2009 | New impacts of cutaneous lupus erythematosus for global standard concepts | Fukumi Furukawa | 皮膚科 |
| Autoimmune Rev 8:495-499, 2009 | Mast cells and histamine metabolism in skin lesions from MRL/MP-lpr/lpr mice | Fukumi Furukawa | 皮膚科 |
| 日本臨床 67:2152-2156, 2009 | ア レ ル ギ ー 疾 患 : 皮 膚 科 | 古川福実 | 皮膚科 |
| 日本臨床皮膚科医学会雑誌 26: 469-471, 2009 | ケミカルピーリング新ガイドラインの展望 | 山本有紀 | 皮膚科 |
| 日本美容皮膚科学会雑誌 19: 100-105, 2009 | ケミカルピーリングによる日光角化症の治療 | 山本有紀 | 皮膚科 |
| MB Derma 158:63-70、2009 | 美容皮膚科治療戦略:ケミカルピーリング | 古川福実 | 皮膚科 |
| 小児科診療 72: 2021-2027, 2009 | 小児の膠原病—全身性エリテマトーデス・新生児エリテマトーデス・小児皮膚筋炎— | 石黒真理子 | 皮膚科 |

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|--|---|---|---------|
| 日本ハンセン病学会誌 78:255-261、2009 | 日本人のハンセン病発症における細菌センサー分子TLR2・DC-SIGN・NOD1・NOD2の遺伝子多型の関与 | 古川福実 | 皮膚科 |
| 脈管学 49: 87-92, 2009 | 皮膚型結節性多発動脈炎 | 古川福実 | 皮膚科 |
| 日本皮膚科学会雑誌、 119:2490-2492、2009 | ケミカルピーリングガイドライン概説 | 山本有紀 | 皮膚科 |
| 日本皮膚科学会雑誌 119:2730-2732、2009 | 若年発症サルコイドーシス・Blau症候群とNOD2変異 | 金澤伸雄 | 皮膚科 |
| Arch Dermatol Res 301: 117-121, 2009 | Cutaneous Polyarteritis Nodosa: Revisiting its Definition and Diagnostic Criteria | Fukumi Furukawa | 皮膚科 |
| Int J Cosmetic Sci 31:70, 2009 | Evaluation of effects of hydroquinone on pigmentation by spectroscopy image analysis | Fukumi Furukawa | 皮膚科 |
| Arthritis Rheum 60: 242- 250, 2009 | Role of NOD2 genotype in the clinical phenotype of Blau syndrome and early-onset sarcoidosis | Okafuji I, Nishikomori R, Kanazawa N, Kambe N, Fujisawa A, Yamazaki S, Saito M, Yoshioka T, Kawai T, Sakai H, Tanizaki H, Heike T, Miyachi Y, Nakahata T: | 皮膚科 |
| J Dermatol Sci 54: 48-49, 2009 | No involvement of non-synonymous TLR2 in Japanese leprosy patients | Mikita N | 皮膚科 |
| Int J Dermatol 48:470-475, 2009 | Phenol application to angiosarcomas: Implications and histological studies | F. Furukawa | 皮膚科 |
| J Am Acad Dermatol 60:615-625, 2009 | Phenol peels as a novel therapeutic approach for actinic keratosis and Bowen disease: prospective pilot trial with assessment of clinical, histological, and immunohistochemical correlations | Fukumi Furukawa | 皮膚科 |
| J Am Acad Dermatol 60:595-603,2009 | Pemphigus Study Group. A randomized double-blind trial of intravenous immunoglobulin for pemphigus | Amagai M, Ikeda S, Shimizu H, Iizuka H, Hanada K, Aiba S, Kaneko F, Izaki S, Tamaki K, Ikezawa Z, Takigawa M, Seishima M, Tanaka T, Miyachi Y, Katayama I, Horiguchi Y, Miyagawa S, Furukawa F, Iwatsuki K, Hide M, Tokura Y, Furue | 皮膚科 |
| Clin Exp Dermatol 34: 630- 632, 2009 | Genotyping of Trichophyton tonsurans isolate from a Japanese boy reveals infection in the U.S.A. | Arakawa A, Kanazawa N, Tanaka S, Yonezawa M, Miyachi Y, Mochizuki T | 皮膚科 |
| Clin Dev Immunol 2009; 673952. Epub 2009 Apr 26 | The protective effects of ultraviolet A1 irradiation on spontaneous lupuserythematosus-like skin lesions in MRL/lpr mice | Naoya Mikita, Nobuo Kanazawa, Takashi Yoshimasu, Takaharu Ikeda, Hong-jin Li, Yuki Yamamoto, Fukumi Furukawa | 皮膚科 |
| Mod Rheumatol 19:567-572, 2009 | Lupus erythematosus tumidus in Japan: a case report and a review of the literature | Nishiyama M, Kanazawa N, Hiroi A, Furukawa F | 皮膚科 |
| J Dermatol 36:563-577, 2009 | Committee for Guidelines for the Management of Atopic Dermatitis of Japanese Dermatological Association Guidelines for Management of Atopic Dermatitis | Hidehisa SAEKI, Masutaka FURUE, Fukumi FURUKAWA, Michihiro HIDE, Mamitaro OHTSUKI, Ichiro KATAYAMA, Rikako SASAKI, Hajime SUTO, Kazuhiko TAKEHARA | 皮膚科 |
| J Dermatol Sci 56: 72-73, 2009 | No involvement of the NOD1 gene mutation Glu266Lys in Japanese leprosy patients. | Hong-jin Li, Nobuo Kanazawa, Yumi Nakatani, Fukumi Furukawa, Motoaki Ozaki, Maki Kosaka, Norihisa Ishii | 皮膚科 |
| Eur J Dermatol 19:594- 596, 2009 | Effective treatment of intractable skin ulcers using allogeneic cultured dermal substitutes in patients with systemic lupus erythematosus | Seiko Toyozawa, Yuki Yamamoto, Akiko Kishioka, Nozomi Yonei, Nobuo Kanazawa, Yasuhiro Matsumoto, Yoshimitsu Kuroyanagi, Fukumi Furukawa | 皮膚科 |
| 和歌山医学 60: 47-52、 2009 | アトピー性皮膚炎患者に対する教育入院の実践 | 西出武司、中村智之、金澤伸雄、山本有紀、古川福実 | 皮膚科 |
| Skin Cancer 23:355-358、2008 | ラジオ波焼灼療法による肝細胞癌のneedle tract implantation の 1 例 | 貴志知生、豊澤聖子、池田高治、山本有紀、古川福実 | 皮膚科 |

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--------------------------------|---|--|------|
| 臨床皮膚科63: 433-441、2009 | アトピー性皮膚炎患者における前向きアンケート調査の開始時基礎情報(第1報) | 古江増隆、川島 真、古川福実、飯塚 一、伊藤雅章、中川秀己、塩原哲夫、島田眞路、瀧川雅浩、竹原和彦、宮地良樹、片山一朗、岩月啓氏、橋本公二 | 皮膚科 |
| 日本美容皮膚科学会雑誌19:45-51、2009 | 日光(性)黒子の病理組織学的検討と治療効果についての考察—予報— | 米井 希、上中智香子、豊澤聖子、古川福実、山本有紀 | 皮膚科 |
| 西日本皮膚科 71: 209-215、2009 | 皮膚科領域におけるステロイド内服剤の使用に伴うステロイド性骨粗鬆症に対する予防的治療の実態(第二報) | 古川福実、池田高治、佐藤伸一、瀧川雅浩 | 皮膚科 |
| 日本皮膚外科学会誌、13-1:62-63、2009 | 20年間の長期経過をたどっているDFSPの1例 | 山本有紀、下松達哉、米井 希、岡本勝行、古川福実、上出康二、松中成浩 | 皮膚科 |
| 日本皮膚科学会雑誌、119:1515-1534、2009 | 日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン | 古江増隆、佐伯秀久、古川福実、秀道広、大槻マミ太郎、片山一朗、佐々木りか子、須藤一、竹原和彦 | 皮膚科 |
| 臨床皮膚科63:593-596、2009 | 激しい掻痒が主症状であったT-cell prolymphocytic leukemia | 峯垣裕介、辻岡肇、吉岡聡、服部舞子、上中智香子、古川福実 | 皮膚科 |
| 日本皮膚科学会雑誌、119:1757-1793、2009 | 接触皮膚炎診療ガイドライン | 高山かおる、横関博雄、松永佳世子、片山一朗、相場節也、伊藤正俊、池澤善郎、足立厚子、戸倉新樹、夏秋健、古川福実、矢上晶子、幸野健、乾重樹、池澤優子、相原道子 | 皮膚科 |
| 日本美容皮膚科学会雑誌19:336-340、2009 | 保湿成分配合角層剥離テープによる美容皮膚科的フィジカルピーリング効果の検証 | 木村文子、山本有紀、古川福実、小林美和、戸倉新樹、白井進子、瀧川雅浩、関谷陽子、辰野智子 | 皮膚科 |
| 臨床皮膚科 63: 1013-1016、2009 | Generalized Morphea-like Scleroderma の例 | 青木真理子、西出武司、池田高治、山本有紀、古川福実 | 皮膚科 |
| J. Reconstructive Microsurgery | Superior lateral genicular artery flap for coverage of soft tissue defect after total knee arthroplasty. | 谷口泰徳 | 整形外科 |
| 臨床整形外科 | いわゆるFar-out syndrome(腰仙椎移行部の椎間孔外狭窄)の臨床所見. | 山田 宏 | 整形外科 |
| 臨床整形外科 | 腰仙椎移行部の椎間孔外狭窄症に対する後方侵入脊椎内視鏡手術の治療成績 | 山田 宏 | 整形外科 |
| Eur Spine J. | Clinical outcomes of microendoscopic decompression surgery for cervical myelopathy. | 南出 晃人 | 整形外科 |
| 臨床整形外科 | 頸髄症に対する内視鏡下後方除圧術の臨床成績. | 南出 晃人 | 整形外科 |
| J Jpn Soc Spine Surg Rel Res | Clinical outcomes of microendoscopic posterior lumbar decompressive surgery for spinal stenosis patients -minimum two years follow-up of 265 cases- | 中川 幸洋 | 整形外科 |
| 臨床整形外科 | 腰椎後方内視鏡手術における閉鎖式ドレーン留置についての前向き調査. | 中川 幸洋 | 整形外科 |
| 脊椎脊髄手術手技 | 後方脊椎内視鏡手術における超音波骨メスの使用経験. | 中川 幸洋 | 整形外科 |
| J Orthop Sci. | Spontaneous regression of a solitary osteochondroma of the distal tibia. | 南 晋司 | 整形外科 |
| 整形・災害外科 | 特集: 腰椎外側部神経障害の診断と治療 Far-out syndrome の診断法 . | 岩崎 博 | 整形外科 |

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|---|------------------|--------|
| 整形外科 | 腰椎椎間孔外狭窄病変に対する新しい電気生理学的診断法の試み. | 岩崎 博 | 整形外科科学 |
| 整形外科 | 肥満患者における脊椎内視鏡下手術の有用性. | 岩崎 博 | 整形外科科学 |
| 臨床整形外科 | 腰椎椎間孔内狭窄に対する内視鏡下椎間孔拡大術 | 岩崎 博 | 整形外科科学 |
| 脊髄機能診断学 | 電気生理学的手法を用いた腰椎椎間孔外狭窄病変の新しい診断法. | 岩崎 博 | 整形外科科学 |
| 臨床整形外科 | 腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下傍正中進入法 —椎間関節を温存するためのアプローチ. | 野村 和教 | 整形外科科学 |
| Spine | Dissecting the effects of spinal fusion and deformity magnitude on quality of life in patients with adolescent idiopathic scoliosis. | 筒井 俊二 | 整形外科科学 |
| Spine | Pedicle screw surface coatings improve fixation in nonfusion spinal constructs. | 筒井 俊二 | 整形外科科学 |
| Hip Joint | S-ROM-A TOTAL HIP SYSTEMを用いた脱臼予防の試み —3ステップ法の効果の検証—. | 山口 耕史 | 整形外科科学 |
| 整形外科 | 腰椎疾患による下垂足患者に対する意識調査. | 高見 正成 | 整形外科科学 |
| 臨床整形外科 | 胸腰椎破裂骨折に対するSextantを用いたtemporary fixation without fusion法による治療経験 | 高見 正成 | 整形外科科学 |
| 臨床整形外科 | 連続型頸胸椎後縦靭帯骨化症に対するposterior expansive cervico-thoracic laminoplastyの適応と限界. | 高見 正成 | 整形外科科学 |
| Hip Joint | 当院における人工股関節置換術後感染に対する治療の検討. | 宮崎 展行 | 整形外科科学 |
| 脊髄機能診断学 | 脊髄運動ニューロンにおける虚血負荷に対するアデノシンの神経保護作用. | 宮崎 展行 | 整形外科科学 |
| 脊髄機能診断学 | ドーパミンによる脊髄運動ニューロンの制御機構. | 阪中 淳也 | 整形外科科学 |
| Diabetes Res Clin Pract 85(1):85-89, 2009 | SUM04Met55Val polymorphism is associated with coronary heart disease in Japanese type 2 diabetes individuals. | Shimada Takeshi | 内科学第1 |
| Diabetes Care 33:150-155.2010 | Truncal pruritus of unknown origin may be a symptom of diabetic polyneuropathy. | Yamaoka Hiroyuki | 内科学第1 |
| FEBS Lett 2: [Epub ahead of print], 2010, IF 3.264, C10 | Ghrelin Inhibits Insulin Secretion through the AMPK-UCP2 Pathway in beta Cells. | Wang Ying | 内科学第1 |
| Chest | the possible role of hematopoietic cell kinase in the pathophysiology of chronic obstructive pulmonary disease | Ichinose M | 第3内科 |
| Respir Neurobiol Physiol | Dagenais A,Berthiaume Y:The regulation of amiloride-sensitive epithelial sodium channels by tumor necrosis factor-alpha in injured lungs and alveolar type II cells | Ichinose M | 第3内科 |

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|-------------------------------|--|------------|---------|
| Allergol Int | Molecular Mechanism of the Additive Effects of Leukotriene Modifier in Asthmatic Patients Receiving Steroid Therapy | Ichinose M | 第3内科 |
| Respir Neurobiol | Physiol Regulation of adenosine 5'-triphosphate(ATP)-gated P2X4 receptors on tracheal smooth muscle cells. | Ichinose M | 第3内科 |
| Am J Respir Cell Mol Biol | Activation of Toll-Like receptor 3 Augments Myofibroblast Differentiation | Ichinose M | 第3内科 |
| Allergol Int | Differences of inflammatory Mechanisms in Asthma and COPD | Ichinose M | 第3内科 |
| responses in healthy subjects | Oxidative stress augments toll-like receptor 8 mediated neutrophilic responses in healthy subjects | Ichinose M | 第3内科 |
| Respiration | Clinical Application of Exhaled Breath Condensate Analysis in Athma: Prediction of FEV1 Improvement by Steroid Therapy | Ichinose M | 第3内科 |
| Pulm Pharma Ther | Rennard S1N-acetyl-L-cysteine inhibits TGF- β 1-induced profibrotic responses in fibroblasts | Ichinose M | 第3内科 |
| Eur Respir J | Rennard S13-Nitrotyrosine inhibits fibroblast-mediated collagen gel contraction and chemotaxis. | Ichinose M | 第3内科 |
| Am J Respir Cell Mol Biol | Oxidative stress Enhances Toll-like Receptor 3 Response to Double-stranded RNA in Air way Epithelial Cells | Ichinose M | 第3内科 |
| Respir Med | Tiotropium 5 μ g via Respimat and 18 μ g via HandiHaler; efficacy and safety in Japanese COPD patients. | Ichinose M | 第3内科 |
| 医療ジャーナル | 気管支喘息における気道炎症マーカー | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 呼吸 | COPD患者における運動耐容能と薬剤による改善効果の規定因子に関する検討 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 呼吸 | 新高速応答呼気一酸化窒素測定機器NA-623N と NIOX-MINO との比較 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| アレルギー疾患の治療 | 喘息治療管理のモニタリング法の今後の見通しは？ | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| アレルギー・免疫 | 本邦における高齢者喘息の現況と課題 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 呼吸と循環 | 吸入療法の指導方法 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| Prog.Med | 気道炎症とリモデリング | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| IgE practice in asthma | 新規作用機序の喘息治療薬登場にあたって | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| IgE practice in asthma | 重症喘息の臨床的な多様性 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| IgE practice in asthma | 重症喘息のメカニズムとその影響 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 臨床と研究 | COPD の 治 療 - 安 定 期 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----------------------------------|--|-------|------|
| Geriat.Med | COPDの大規模試験の動向 高齢者における COPD | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 臨床画像別刷 | COPD の 国 際 ガ イ ド ラ イ ン 「 GOLD 」 に つ い て | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| アレルギーの臨床 | 気道アレルギー疾患に対する 抗炎症 治療のトピックス | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| COPD FRONTIER | COPD 治療の概念はどう変わるのか - UPLIFT の 結 果 を 読 み 込 む - | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| Pharma Medica | UPLIFT studyをいかに解釈すべきか | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| Medical Practice | 重要な病態の評価法と対策 気道 炎症 の 評 価 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 呼吸器科 | COPDに対する国際ガイドライン(GOLD)の 新 旧 比 較 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| practice in asthma | 重症アレルギー性喘息 による負 担 と 抗 IgE 抗 体 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 日本医師会雑誌 | COPD治療の生命予後改善のエビデンス- TORCH 研究 と UPLIFT 研究 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| International Review of Asthma | 高齢者における喘息管理 の 問 題 点 と 留 意 点 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 呼吸 | 難 治 性 喘 息 の 現 状 と 展 望 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 呼吸 | 呼吸器疾患のセルフマネジメント(座談 会) | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 呼吸 | プロカテロールのCOPDへのアシストユース - 呼吸機能の改善と患者活動性の向上 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 治療学 | 気管支喘息合併 COPD の 1 患者 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 和歌山医学 | 慢性閉塞性肺疾患の気道炎症における窒 素化ストレスの役割-治療ターゲットとしての 可 能 性 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| IgE practice in asthma | IgE と 気 道 過 敏 性 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| COPD FRONTIER | 安 定 期 の 管 理 指 針 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 呼吸器科 | COPD の 薬 物 療 法 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 医学のあゆみ | COPD 臨 床 試 験 解 釈 の 注 意 点 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 呼吸と循環 | 大 規 模 試 験 か ら み た COPD | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| レジデント | ガイドラインに基づくCOPDの診断 呼吸機能検査・動脈血液ガス 検査のポイント | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 日本内科学会雑誌 | バイオマーカー測定の意味と限界 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|--|---|-----------|---------|
| 感染 炎症 免疫 | 気道炎症モニタリング: 気管支喘息 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| アレルギーの臨床 | 喘息の最新治療、 抗コリン薬の位置付け | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| Prog.Med | 認知症と高齢者喘息 | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| 岡崎医法 | ガイドラインに基づく最新のCOPD治療・大規模トリアルUPLIFTを踏まえて | 一ノ瀬正和 | 第3内科 |
| Clin Neurol Neurosurgery | Surgical treatment and outcome of skull base meningiomas with extracranial extensions | 中尾 直之 | 脳神経外科 |
| Clin Neurol Neurosurgery | Surgical outcome of endoscopic endonasal approach for non-functioning giant pituitary | 中尾 直之 | 脳神経外科 |
| 日本内分泌学会誌 | 巨大下垂体腺腫に対する経鼻的内視鏡手術の有用性の限界 | 中尾 直之 | 脳神経外科 |
| Interventional Radiology 2009;24:235-5. | 全身療法とラジオ波熱凝固療法による乳がん治療 | 尾浦 正二 | 第1外科 |
| 臨床と研究 2009 ; 86 : 302-5 | 進歩した乳癌手術 RF波による焼灼療法 | 尾浦 正二 | 第1外科 |
| Gen Thorac CardioVasc Surg.2009;57:138-43. | Histoculture drug response assay for gefitinib in non-small-cell lung cancer | 尾浦 正二 | 第1外科 |
| 脈管学 2009;49:335-8. | 大動脈瘤手術の術前冠動脈評価におけるMDCTの有用性と問題 | 西村 好晴 | 第1外科 |
| 癌と化学療法 2009 ; 36 : 611-4 | ERCC1陽性非小細胞肺癌における術後補助化学療法の薬剤 | 平井 慶充 | 第1外科 |
| 癌と化学療法 2009 ; 36 : 254-4 | 乳癌に対する術前化学療法としてのWeekly PaclitaxelとFEC100順次投与の効果と安全性の検 | 内藤 古真 | 第1外科 |
| Dig Surg 26(5):392-399, 2009 | New prediction model of postoperative complications after a major hepatectomy for hepatocellular carcinoma. | 上野昌樹 | 第2外科 |
| J Hepatobiliary Pancreat Surg 2009 Nov 12 | Middle pancreatectomy for pancreatic neoplasms | 廣野誠子 | 第2外科 |
| World J Emerg Surg. 31;4:36, 2009 | C-Reactive protein is an independent surgical indication marker for appendicitis: a retrospective study. | 横山省三 | 第2外科 |
| Surg Today. 39(10):855-60, 2009 | Optimal dose of preoperative enteral immunonutrition for patients with esophageal cancer. | 中村公紀 | 第2外科 |
| Surg Today 39(9):811-7, 2009 | Reconstruction of an infected recurrent ventral hernia after a mesh repair using a pedicled tensor fascia lata flap: report of two cases. | 速水晋也 | 第2外科 |
| World J Surg 33(12):2670-8. 2009 | How Do We Predict the Clinically Relevant Pancreatic Fistula After Pancreaticoduodenectomy?-An Analysis in 244 Consecutive Patients. | 川井 学 | 第2外科 |
| J Gastrointest Surg 13(10):1821-30, 2009 | Association of Allogeneic Blood Transfusions and Long-Term Survival of Patients with Gastric Cancer after Curative Gastrectomy. | 尾島敏康 | 第2外科 |
| Surg Today. 39(8):675-81, 2009 | Prognostic impact of treatment modalities on patients with single nodular recurrence of hepatocellular carcinoma | 上野昌樹 | 第2外科 |
| World J Surg 33(9):1882-8, 2009 | Evaluation of Double Tract Reconstruction After Total Gastrectomy in Patients with Gastric Cancer: Prospective Randomized Controlled Trial. | 岩橋 誠 | 第2外科 |

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|--|-------|------|
| Gastrointest Surg. 13(9):1659-65, 2009 | A central pancreatectomy for benign or low-grade malignant neoplasms. | 廣野誠子 | 第2外科 |
| J Hepatobiliary Pancreat Surg. 16(5):675-80, 2009 | A pancreaticoduodenectomy is acceptable for periampullary tumors in the elderly, even in patients over 80 years of age. | 谷 眞至 | 第2外科 |
| Arch Surg. 144(4):351-8, 2009 | Influence of Overweight on Gastric Cancer Patients after Curative Gastrectomy: An analysis of 689 consecutive cases managed by a single center. | 尾島敏康 | 第2外科 |
| Arch Surg. 144(4):345-9, 2009 | Treatment strategy for intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas based on malignant predictive factors. | 廣野誠子 | 第2外科 |
| Int J Oncol. 34(4):915-22, 2009 | High CCR7 mRNA expression of cancer cells is associated with lymph node involvement in patients with esophageal squamous cell carcinoma. | 石田興一郎 | 第2外科 |
| Surg Today. 39(3):219-24, 2009 | Pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy versus conventional pancreaticoduodenectomy for pancreatic adenocarcinoma. | 谷 眞至 | 第2外科 |
| J Hepatobiliary Pancreat Surg. 16(3):333-8, 2009 | Xanthogranulomatous cholecystitis: The use of preoperative CT findings to differentiate it from gallbladder carcinoma. | 内山和久 | 第2外科 |
| Am Surg. 75(1):66-73, 2009 | Risk factors and management for massive bleeding of an acute hemorrhagic rectal ulcer. | 堀田 司 | 第2外科 |
| Digestive Surg 26:69-74, 2009 | Survival of patients with T3 stage III rectal cancer is significantly worse than T2 stage III rectal cancer. A new proposal of a subdivision of stage III rectal cancer. | 堀田 司 | 第2外科 |
| Langenbecks Arch Surg 394(1):65-70, 2009 | Long-term comorbidity of diabetes mellitus is a risk factor for perineal wound complications after an abdominoperineal resection. | 松田健司 | 第2外科 |
| Langenbecks Arch Surg 394:249-253, 2009 | Liver metastasis as an initial recurrence has no impact on the survival of patients with resectable pancreatic adenocarcinoma. | 谷 眞至 | 第2外科 |
| Langenbecks Arch Surg 394:243-247, 2009 | Half clamping of the infrahepatic inferior vena cava reduces bleeding during a hepatectomy by decreasing the central venous pressure | 内山和久 | 第2外科 |
| Langenbecks Arch Surg 394(4):647-53, 2009 | Analysis of the prognostic factors and evaluation of surgical treatment for synchronous liver metastases from gastric cancer. | 上田健太郎 | 第2外科 |
| Langenbecks Arch Surg 395(3):235-9, 2010 | Clinicopathological features of anastomotic recurrence after an anterior resection for rectal cancer. | 松田健司 | 第2外科 |
| Ann J Surg 199(4):447-52, 2010 | The ratio between metastatic and examined lymph nodes is an independent prognostic factor for patients with resectable middle and distal bile duct carcinoma. | 川井 学 | 第2外科 |
| Int J Cancer. 126(7):1691-701, 2010 | Combination of p53 codon 72 polymorphism and inactive p53 mutation predicts chemosensitivity to 5-fluorouracil in colorectal cancer. | 富永敏治 | 第2外科 |
| Cancer Sci. 101(1):259-66, 2010 | Molecular markers associated with lymph node metastasis in pancreatic ductal adenocarcinoma by genome-wide expression profiling. | 廣野誠子 | 第2外科 |
| J Gastrointest Surg. 14(2):277-81, 2010 | Clinicopathological Characteristics of Remnant Gastric Cancer After a Distal Gastrectomy. | 尾島敏康 | 第2外科 |
| Cancer Sci. 101(2):433-9, 2010 | Phase I clinical trial using peptide vaccine for human vascular endothelial growth factor receptor 2 in combination with gemcitabine for patients with advanced pancreatic cancer. | 宮澤基樹 | 第2外科 |
| Pancreas 39(4):473-85, 2010 | Identifying molecular markers for chemosensitivity to gemcitabine in pancreatic cancer: increased expression of Interferon stimulated gene 15kDa is associated with intrinsic chemoresistance. | 伊奈志乃美 | 第2外科 |
| Am J Surg. 199, 759-764, 2010 | A prospective randomized controlled trial of internal versus external drainage with pancreaticojejunostomy for pancreaticoduodenectomy. | 谷 眞至 | 第2外科 |
| Journal of Medical Case Reports 14:4:8, 2010 | Hemangiopericytoma in the sacrococcygeal space: a case report. | 北畑裕司 | 第2外科 |

小計
19小計
22

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|--|-------|------|
| BMC Surg. 8;10:8, 2010 | Moderately differentiated colorectal adenocarcinoma as a lymph node metastatic phenotype: comparison with well differentiated counterparts. | 横山省三 | 第2外科 |
| Mol Cancer. 13;9(1):59, 2010 | Overexpression of the JmjC histone demethylase KDM5B in human carcinogenesis: involvement in the proliferation of cancer cells through the E2F/RB pathway. | 速水晋也 | 第2外科 |
| Int J Cancer. 2010 | Overexpression of LSD1 contributes to human carcinogenesis through chromatin regulation in various cancers. | 速水晋也 | 第2外科 |
| Pancreas 39(6):879-83, 2010 | MUC1 Is A Useful Molecular Marker for Malignant Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms in Pancreatic Juice Obtained from Endoscopic Retrograde Pancreatography | 嶋本哲也 | 第2外科 |
| Exp Mol Pathol. 2010 Jun 1 | SNAIL induces epithelial-to-mesenchymal transition in a human pancreatic cancer cell line (BxPC3) and promotes distant metastasis and invasiveness in vivo. | 西岡亮平 | 第2外科 |
| Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 2010 | Risk factors for postoperative infectious complications after hepatectomy. | 内山和久 | 第2外科 |
| 消化器内視鏡治療の患者説明用ハンドブック. | 下部消化管出血に対する内視鏡的止血術 | 瀧藤克也 | 第2外科 |
| 胃ろうケアと栄養剤投与方法 | 胃瘻造設術後③胃瘻造設に伴う合併症 | 瀧藤克也 | 第2外科 |
| 消化器外科ナーシング 春期増刊 | 脾がん | 廣野誠子 | 第2外科 |
| 癌の臨床 | スキルス胃癌切除症例の解析から考えるarming oncolytic virus の開発 | 中森幹人 | 第2外科 |
| 消化器外科 | 脾腫瘍 その他の悪性腫瘍 治療の実際. | 廣野誠子 | 第2外科 |
| 和歌山医学 | 脾頭十二指腸切除術後合併症対策における臨床試験の現状 | 川井 学 | 第2外科 |
| 手術 | 吻合部再発軽減およびSSI防止からみた腹腔鏡下結腸切除時の機能的端端吻合の手術手順 | 堀内哲也 | 第2外科 |
| 胆道 | EST後の再発総胆管結石症に対する腹壁吊り上げ法による腹腔鏡下胆管十二指腸側側吻合術の経験 | 水崎 馨 | 第2外科 |
| 日本消化器外科学会雑誌 | 経皮的ラジオ波焼灼療法後の肝細胞癌孤立性大動脈周囲リンパ節再発の1切除例 | 濱 卓至 | 第2外科 |
| 癌と化学療法 | がん診療連携拠点病院における緩和ケアチームの立ち上げと取り組み -大阪府南河内二次医療圏モデル- | 濱 卓至 | 第2外科 |
| 改訂版)関西経皮内視鏡的胃瘻造設術研究会編集 | PEG(胃瘻)栄養-適切な栄養管理を行うために | 瀧藤克也 | 第2外科 |
| 第3版)日本消化器内視鏡学会専門医試験委員会編集 | 日本消化器内視鏡学会専門医試験問題解答と解説 | 瀧藤克也 | 第2外科 |
| 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズNo. 11 | 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No. 1 1 | 岩橋 誠 | 第2外科 |
| 脾癌診療ポケットガイド | 切除例に対する術後管理・ケアの実際 | 谷 眞至 | 第2外科 |
| 消化器外科学レビュー2010 | 6 . 脾疾患 2 . 脾癌 | 谷 眞至 | 第2外科 |
| 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ | 消化管症候群(第2版)下-その他の消化管疾患を含めて-。IV空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸、血行障害、血管病変、小腸・大腸静脈瘤。 | 堀田 司 | 第2外科 |

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|-------------------------------------|---|-----------|---------|
| Biotherapy | 腫瘍溶解ウイルスの癌治療への応用. | 中森幹人 | 第2外科 |
| 癌の臨床 | スキルス胃癌切除症例の解析から考える arming oncolytic virus の 開 発 | 中森幹人 | 第2外科 |
| 消化管症候群(第2版)上. 別冊 日本臨床 | 逆 流 性 胃 炎 | 永井祐吾 | 第2外科 |
| 関東腹腔鏡下胃切除研究会 | Bilroth 1法 a. Hemidouble stapling technique. 腹腔鏡下胃切除術. 一目でわかる術野展開とテクニック | 永井祐吾 | 第2外科 |
| 関東腹腔鏡下胃切除研究会 | ステップ別術野展開法で修得する腹腔鏡下胃切除術の手法. 腹腔鏡下胃切除術. 一目でわかる術野展開とテクニック | 永井祐吾 | 第2外科 |
| 関東腹腔鏡下胃切除研究会 | クリップをかけた中極側から動脈性出血が… 腹腔鏡下胃切除術. 一目でわかる術野展開とテクニック | 永井祐吾 | 第2外科 |
| 関東腹腔鏡下胃切除研究会. | 剝離鉗子の使い方. 腹腔鏡下胃切除術. 一目でわかる術野展開とテクニック | 永井祐吾 | 第2外科 |
| 東腹腔鏡下胃切除研究会 | サージカルスモーク対策. 腹腔鏡下胃切除術. 一目でわかる術野展開とテクニック. | 永井祐吾 | 第2外科 |
| 関東腹腔鏡下胃切除研究会 | LAGにおけるトロカー挿入部位. 腹腔鏡下胃切除術. 一目でわかる術野展開とテクニック. | 永井祐吾 | 第2外科 |
| 手術 | 膵体尾部切除術—RAMPS法について— | 山上裕機 | 第2外科 |
| THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS | 外科感染症分離菌とその薬剤感受性—2007年度分離菌を中心— | 山上裕機 | 第2外科 |
| 感染制御JICP | 膵 癌 ペ プ チ ド ワ ク チ ン . | 山上裕機 | 第2外科 |
| 静注用免疫グロブリン製剤ハンドブック | 重 症 感 染 症 外 科 系 . | 山上裕機 | 第2外科 |
| 胆と膵 | 膵癌ペプチドワクチン療法—腫瘍新生血管を標的とした新規免疫療法の開発— | 山上裕機 | 第2外科 |
| 子細胞治療フロンティア2010 | 膵癌に対するワクチン治療開発—Phase I studyの結果と今後の方向性— | 山上裕機 | 第2外科 |
| 胆と膵 | 胆管結石に対する胆管十二指腸(端側)吻合術の適応とその長期成績. | 内山和久 | 第2外科 |
| 消化器外科 | 術前画像による胆嚢癌の壁深達度診断. | 内山和久 | 第2外科 |
| 外科治療 | 肝切除の術前における肝予備能判定式の確立とその評価. | 内山和久 | 第2外科 |
| 和歌山県医師会医学雑誌 | 消化器癌に対する内視鏡治療—内視鏡的粘膜下層剝離術(ESD)の工夫と治療成績— | 瀧藤克也 | 第2外科 |
| Biotherapy | 膵癌に対する免疫療法の試み —MUC4—DC療法. Mesothelinを標的とした膵癌に対する免疫療法 | 岩橋 誠 | 第2外科 |
| 分子細胞治療フロンティア | 進行胃癌に対する腫瘍溶解型ヘルペスウイルス治療 開 発 | 中森幹人 | 第2外科 |
| 消化器外科 | 膵切除;膵体尾部切除における各種デバイスの検討 | 川井 学 | 第2外科 |

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--------------|---|-------|------|
| 和歌山医学 | 腫瘍抗原遺伝子導入樹状細胞を用いた癌ワクチン療法 | 尾島敏康 | 第2外科 |
| 胆と膵 | 癌化予測因子と予後因子からみた治療戦略 | 廣野誠子 | 第2外科 |
| 膵臓 | 膵癌に対する腫瘍新生血管を標的としたペプチドワクチン療法 | 宮澤基樹 | 第2外科 |
| 内科 | Bouveret 症候群 | 山本誠己 | 第2外科 |
| 日本外科感染症学会雑誌 | 当院におけるStenotrophomonas maltophiliaの検出状況の特徴について | 内山和久 | 第2外科 |
| 和歌山医学 | 結腸癌に対する腹腔鏡補助下大腸切除術習得前後における手術成績の比較 | 堀田 司 | 第2外科 |
| 和歌山医学 | 直腸癌に対する腹腔鏡補助下低位前方切除術習得前後における手術成績の比較 | 堀田 司 | 第2外科 |
| 日本小児外科学会雑誌 | 超低出生体重児の怪死性腸炎に対する胎盤絨毛膜炎に関する検討 | 渡邊高士 | 第2外科 |
| 日本消化器外科学会雑誌 | 胸部食道癌患者に対する術前心肺機能強化トレーニング効果に関する前向き研究 | 小池有美 | 第2外科 |
| 和歌山医学 | 腹腔鏡下手術にて摘出した成人後腹膜嚢胞性リンパ血腫の1例 | 竹井 陽 | 第2外科 |
| 日本消化器外科学会雑誌 | 虫垂原発小細胞癌に粘液嚢胞腺癌が混合したまれな腫瘍の1例 | 竹井 陽 | 第2外科 |
| 日本臨床外科学会雑誌 | 膵頭部癌術後に発症した孤立性胃転移の1例 | 岩本博光 | 第2外科 |
| 日本臨床外科学会雑誌 | 仙骨全面に発生した骨髄脂肪腫の1例 | 山口俊介 | 第2外科 |
| 日本消化器外科学会雑誌 | 化学療法で完全寛解しえた降mucosa-associated lymphoid tissueリンパ腫の1例 | 岡田健一 | 第2外科 |
| 胆と膵 | 若手医師として、日本肝胆膵外科学会高度技能医制度を考える | 岡田健一 | 第2外科 |
| 癌と化学療法 | TS-1適正使用確認システムの構築とその応用 | 東さやか | 第2外科 |
| 京都医学会雑誌 | メタボリックシンドロームと上部消化管病変との関連性—5年連続で追跡された貧困検診受診者による検討— | 落合 淳 | 第2外科 |
| 日本人間ドック学会誌 | 健診の上部消化管X線検査で無症状の咽頭梨状高癭が発見された場合の判定と事後指導 | 田伏洋治 | 第2外科 |
| 日本消化器内視鏡学会雑誌 | 経皮内視鏡的十二指腸瘻造設術を施行した胃歪全摘術後の1例 | 高木伴幸 | 第2外科 |
| 日本臨床外科学会雑誌 | 腹腔鏡下胆嚢摘出術後に胆嚢管へのクリップの迷入を伴った胆嚢管結石症の1例 | 椿原秀明 | 第2外科 |
| 日本臨床外科学会雑誌 | 縦走潰瘍を形成したアミロイド大腸炎の1例 | 椿原秀明 | 第2外科 |
| 和歌山医学 | 茶粥と柿により形成されたと考えられた胃石の落下による腸閉塞の1例 | 中谷佳弘 | 第2外科 |

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|---|------------|------------|
| 日本内視鏡外科学会雑誌 | 成人腸重積合併小腸GISTに対する腹腔鏡補助下手術の1例 | 水崎 馨 | 第2外科 |
| 小児外科 | 小児外傷性脾損傷に対する脾部分切除術の経験 | 三谷泰之 | 第2外科 |
| 日本臨床外科学会雑誌 | 傍大動脈領域にみられた交感神経由来の後腹膜神経鞘腫の1例 | 重河嘉靖 | 第2外科 |
| Front Biosci | TGF beta in fibroproliferative diseases in the eye | Saika.s | 眼科 |
| 白内障手術学会誌 | 水晶体上皮の遺伝子発現:胎児発生と後発白内障 | 白井 久美 | 眼科 |
| 日本白内障学会誌 | 臨床から基礎へ 後発白内障、外傷性白内障 | 白井 久美 | 眼科 |
| IOL & RS | Toxic Anterior Segment Syndrome (TASS) 粘弾性物質のエンドトキシン濃度 | 宮崎 賢一 | 眼科 |
| Invest Ophthalmol Vis Sci | Suppression of injury-induced conjunctive scarring by peroxisome proliferator-activated receptor gamma genetransor in mice | 山中 修 | 眼科 |
| Ophthalmic Rec | JNK MAPK Signaling Contribotes in vivo to Injury-Induced Corneal Epithelial Migration | 岡田由香 | 眼科 |
| IOL & RS | 眼内レンズ二次縫着(片側縫着)術成績の検討 | 中田 元子 | 眼科 |
| Invest Ophthalmol Vis Sci | Impaired angiogenic response in the cornea of mice lacking osteopontin | 藤田 識人 | 眼科 |
| Mol Vis | Sonic hedgehog! Its expression in a healing corner and its role in neovascularization | 藤田 恭子 | 眼科 |
| 眼科臨床紀要 | 網膜厚変化を観察したPurtscher外傷性網膜症の1例 | 藤田 周子 | 眼科 |
| Br J Haematol | NKG2D-mediated immunity underlying paroxymal nocturnal haemoglobinuria and related bone marrow failure syndromes | 小島 研介 | 輸血・血液疾患治療部 |
| Cancer Sci | Cyclin-dependent kinase 1 inhibitor RO-3306 enhances p53-mediated Bax activation and mitochondrial apoptosis in AML | 小島 研介 | 輸血・血液疾患治療部 |
| Int J Hematol | Bone marrow large B cell lymphoma bearing cyclin D3 expression:clinical morphologic immunophenotypic,and genotypic analyses of seven patients. | 園木 孝志 | 輸血・血液疾患治療部 |
| Int J Hematol | Establishment of a novel CD20 negative mature B-cell lymphoma patient treat with rituximab. | 園木 孝志 | 輸血・血液疾患治療部 |
| Int J Hematol | Succesful treatment with liposomal doxorubicin for widespread kaposi's sarcoma and human herpesvirus-8 related severe hemophagocytic syndrome in a patient with acquired immunodeficiency syndrome. | 園木 孝志 | 輸血・血液疾患治療部 |
| J Vasc Interv Radiol 20 : 1176-1187, 2009 | Evaluation of Transcatheter Arterial Embolization with Gelatin Sponge Particles, Microcoils, and N-butyl Cyanoacrylate for Acute Arterial Bleeding in a Coagulopathic Condition | Morio Sato | 放射線科 |

小計

19

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|--|------------|-------|
| Int J Radiation Oncology Biol Phys 75 (2) : 587-894, 2009 | Critical Organ preservation in reirradiation brachytherapy by injectable spacer . | Morio Sato | 放射線科 |
| Int. J. Radiation Oncology Biol. Phys. 73 (3) : 824-831, 2009 | Single photon emission computed tomography-based three-dimensional conformal radiotherapy for hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombus . | Morio Sato | 放射線科 |
| Cardiovasc Intervent Radiol 32 : 62-69, 2009 | Radiofrequency Ablation Assisted by Real-Time Virtual Sonography and CT for Hepatocellular Carcinoma Undetectable by Conventional Sonography . | Morio Sato | 放射線科 |
| Int j Clin Oncol 14 : 351-355, 2009 | : long survival achieved by multimodal treatment . | Morio Sato | 放射線科 |
| Journal of Vascular and Interventional Radiology 20 : 1359-1364, 2009 | Effects of Hepatic Artery Chemoembolization Using Cisplatin-lipiodol Suspension with Gelatin Sponge Particles on Swine Liver . | Morio Sato | 放射線科 |
| Jpn J Radiol 27 : 218-220, 2009 | Leiomyoma of the seminal vesicle . | Morio Sato | 放射線科 |
| Cardiovasc Intervent Radiol 32 : 1209-1216, 2009 | Changes in Portal Systemic Pressure Gradient After Balloon Occluded Retrograde Transvenous Obliteration of Gastric Varices and Aggravation of Esophageal Varices . | Morio Sato | 放射線科 |
| 画像診断 29(10):1097, 2009 | すとらびすむす 団塊の端くれ . | 佐藤守男 | 放射線科 |
| 画像診断 29(12):1433-1439, 2009 | 男性泌尿生殖器疾患の知識と画像診断 男性不妊とIVR -精索静脈瘤を中心に- | 佐藤守男 | 放射線科 |
| 臨床放射線 54 (3) :335-337, 2009 | 肝細胞癌の診断と治療 -最新動向と将来展望- | 佐藤守男 | 放射線科 |
| 臨床放射線 54 (7) : 867-873, 2009 | 前立腺癌に対する高線量率組織内照射(1日2回)と外部照射の併用治療について | 佐藤守男 | 放射線科 |
| Mebio:150-152, 2009 | 座談会 急性心不全治療 最新的话题:日欧の比較を中心に | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| 循環器専門医 | 冠動脈イメージングの最前線-光干渉断層法(OCT)からみた粥腫破裂 | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| Medical Tribune: 84-85, 2009 | 不安定プラークの性状のより詳細な把握を可能にするOCT | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| 和歌山県医師会医学雑誌 第38巻:3-5, 2009 | 日常臨床における効果的な抗不整脈薬の使い方 | 今西敏雄 | 循環器内科 |
| 「虚血性心疾患:診断と治療の進歩」第98巻, 日本内科学会雑誌: 280-288, 2009 | II, 診断と検査 5. 侵襲的画像診断の進歩 | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| 循環器科65(6):572-580, 2009 | OCTによる冠動脈疾患の評価 | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| 心エコー 10(3):304-307, 2009 | 心エコー図学会を振り返って | 平田久美子 | 循環器内科 |
| Mebio 26 (4):72-79, 2009 | 冠動脈OCTによる評価 | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| 最新 狭心症診療の実際 | 狭心症に対するOptical Coherence Tomography(OCT) | 赤阪隆史 | 循環器内科 |

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|---|---|-------------|---------|
| Heart View 13(11):55-61, 2009 | 不安定プラークを診る③:OCTで診る | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| 分子心血管病(12) 9(6):100-104, 2009 | 真のGeneral Cardiologistを目指して | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| Cardiac Practice 20(4): 65(293)-69(297), 2009 | 特集 PCIの最近の動向、トピックス、PCIにおけるIVUS, OCTの役割 | 田中篤 | 循環器内科 |
| 心エコー 10(5):452-458, 2009 | 心カテ室にソノグラファーは果たして必要か | 田中篤 | 循環器内科 |
| Kokutai 6:40-41, 2009 | 日本の医療を変える気概で富士山のようなすそ野の広い医師を育てる | 北端宏規 | 循環器内科 |
| Heart View 13(7): 31-35, 2009 | 運動負荷、薬物負荷で評価する | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| 医学書院. 第57巻第3号別刷: 291-298, 2009 | 冠動脈疾患とOCT | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| 分子心血管 10(2): 109-117, 2009 | 座談会 急性冠症候群の分子イメージングとナノ治療 | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| Medicina 2009(8): 1241-1247, 2009 | 「ガイドラインを基盤とした心不全の個別診療」心不全の画像診断のポイント:心エコー, CT, MRI, 心筋シンチ. | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| NEW専門医を目指しケース・メソッド・アプローチ 10 循環器疾患 | 息切れ・動悸を主訴に受信した32歳男性 | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| Medical Tribune(12):54-55, 2009 | 討論 ハイリスク患者の脂質管理の将来像とコレステロール吸収阻害の意義 | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| 循環器疾患最新の治療2010~2011: 158-162, 2010 | 大動脈弁閉鎖不全症 | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| J-DESsERT News(8)13: 2009 | J-DESsERTにおけるOCT解析の意義 | 赤阪隆史 | 循環器内科 |
| Heart Vessels 24: 96-102, 2009 | Myocardial salvage for ST-elevation myocardial infarction with terminal QRS distortion and restoration of brisk epicardial coronary flow | Kitabata H | 循環器内科 |
| Am J Cardiol. 105 : 318-22, 2009 | Multiple coronary lesion instability in patients with acute myocardial infarction as determined by optical coherence tomography | Imanishi T | 循環器内科 |
| Cardiac Interventions Today, April/May: 35-37, 2009 | OCT-ready for prime time? : Clinical Applications of Optical Coherence Tomography | Akasaka T | 循環器内科 |
| Atherosclerosis 202 : 491-497, 2009 | Effect of stain therapy on coronary fibrous-cap thickness in patients with acute coronary syndrome: Assessment by optical coherence tomography study. | Takarada S | 循環器内科 |
| Am J Cardiol 103 (9) : 1275-1279, 2009 | Usefulness of a Combination of Systolic Function by Left Ventricular Ejection Fraction and Diastolic Function by E/E to Predict Prognosis in Patients With Heart Failure | Hirata K | 循環器内科 |
| Eur Heart Journal 30 : 1348-1355, 2009 | Lipid-rich plaque and myocardial perfusion after successful stenting in patients with non-ST-segment elevation acute coronary syndrome: an optical coherence tomography study | Imanishi T, | 循環器内科 |

小計

19

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|---|---|------------|---------|
| Coron Artery Dis 20: 531-535, 2009 | High Sensitivity C-Reactive Protein and Plaque Composition in Patients with Stable Angina Pectoris: A Virtual Histology Intravascular Ultrasound Study | Tanimoto T | 循環器内科 |
| Circ J 73(11): 2036-2041, 2009 | Predictors and Prognosis of Stent Fracture After Sirolimus-Eluting Stent Implantation | Ino Y | 循環器内科 |
| Circ J 73: 1473-1478, 2009 | Branch Segment Occlusion With Acute Myocardial Infarction is a Risk for Left Ventricular Free Wall Rupture | Ino Y | 循環器内科 |
| JACC Cardiovasc Imaging 2(2): 246, 2009 | Optical Coherence Tomography to Diagnose Under-Expansion of a Drug-Eluting Stent | Akasaka T | 循環器内科 |
| Circ J 73(7): 1291-1295, 2009 | Relationship Between Coronary Arterial Remodeling, Fibrous Cap Thickness and High-Sensitivity C-Reactive Protein Levels in Patients With Acute Coronary Syndrome | Kitabata H | 循環器内科 |
| JACC Cardiovasc Imaging 2: 263-272, 2009 | Coronary Microvascular Resistance Index Immediately After Primary Percutaneous Coronary Intervention as a Predictor of the Transmural Extent of Infarction in Patients With ST-Segment Elevation Anterior Acute Myocardial Infarction | Kitabata H | 循環器内科 |
| J Am Coll Cardiol 54(2): 130-138, 2009 | Impact of Heterogeneity of Human Peripheral Blood Monocyte Subsets on Myocardial Salvage in Patients With Primary Acute Myocardial Infarction | Imanishi T | 循環器内科 |
| J Am Soc Echocardiogr 22(9): 1015-1021, 2009 | Bedside assessment of myocardial viability using transmural stain profile in patients with ST-elevation myocardial infarction-comparison with cardiac magnetic resonance imaging | Tanimoto T | 循環器内科 |
| JACC Cardiovasc Imaging 2(12): 1412-1419, 2009 | Feasibility of Noninvasive Assessment of Thin-Cap Fibroatheroma by Multidetector Computed Tomography | Kitabata H | 循環器内科 |
| J Hum Hypertens 23: 444-450, 2009 | The influence of obesity and metabolic risk variables on brachial-ankle pulse wave velocity in healthy adolescents | Arita M | 循環器内科 |
| Vascular Disease Prevention (review) 6: 69-74, 2009 | The rennin-angiotensin-aldosterone system as a therapeutic target for endothelial dysfunction | Imanishi T | 循環器内科 |
| Clinical Medicine: Therapeutics (1): 321-331, 2009 | Hypertension management: Focus on Aliskiren | Imanishi T | 循環器内科 |
| Coron Artery Dis 20(4): 260-266, 2009 | Ruptured plaque is associated with larger infarct size following successful percutaneous coronary intervention in ST segment elevation acute myocardial infarction | Akasaka T | 循環器内科 |
| Japanese Journal of Clinical Physiology 39(6): 279-285, 2009 | Subclinical Target Organ Damage in Masked and White-Coat Hypertension | Arita M | 循環器内科 |
| 22 nd Nicorandil Scientific Meeting, Life Science Publishing: 14, 2009 | Effect of Nicorandil versus Nitroglycerin on Cardiac and Renal Function in Patients with Acute Ischemic Heart Failure | Komukai K | 循環器内科 |
| 日本臨床スポーツ医学会誌, 17(1): 59-64, 2009 | 若年スポーツ選手における生活習慣病の検討 | 有田幹雄 | 循環器内科 |
| 関西臨床スポーツ医・科学研究会誌, 18: 45-46, 2009 | 血圧と血中抗酸化能に及ぼす運動の影響 | 有田幹雄 | 循環器内科 |
| デサントスポーツ科学 (30): 77-86, 2009 | 運動負荷中及び終了後の中心血圧測定による心血管リスク評価の有効性の検討 | 有田幹雄 | 循環器内科 |

小計
18
合計
323

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

| | |
|---------|------------|
| 管理責任者氏名 | 病院長 岡村 吉隆 |
| 管理担当者氏名 | 事務局長 脇田 文広 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|---|--|------------------------------|---|
| 診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | | 病院課 中央病歴部 薬剤部 各診療部門 | 平成22年4月以前のカルテ、X線写真等は、中央病歴部において集中管理、平成22年5月より、電子カルテが稼働しており、電子媒体により保存されている。 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 事務局総務課 | |
| | 高度の医療の実績 | 事務局病院課経理課 | |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 事務局企画課 | |
| | 高度の医療の研修の実績 | 事務局経理課 | |
| | 閲覧実績 | 事務局経理課 | |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 事務局経理課 | |
| | 入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 事務局経理課 薬剤部 | |
| 項規 第一 第一 号に 条掲 げ十 一第 一制 の項 確保 の状 及び 第九 条の 二十三 第一 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療安全推進室 | |
| | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療安全推進室 | |
| | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療安全推進室 | |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全推進室 | |
| | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 医療安全推進室 | |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 感染制御部 | |
| | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 医療安全推進室 | |
| | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医療安全推進室 | |

(様式第12)

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|---|--|---|--------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 感染制御部 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染制御部 |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染制御部 |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染制御部 |
| | | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 薬剤部 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 事務局経理課 |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 事務局経理課 |
| 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 事務局経理課 | | |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 事務局経理課 | | |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|-------------|---------------------------------------|
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 岡村 吉隆 |
| 閲覧担当者氏名 | 総務課 服部 一宏 病院課長 湯川 恭栄 医療安全推進室 谷口 明美 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 病院課 |

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 0件 |
| | 歯科医師 | 延 0件 |
| | 国 | 延 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 0件 |

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

| | | | |
|------|------------------------|---------|------------------------|
| 紹介率 | 68.4% | 算定期間 | 平成21年4月1日 ~ 平成22年3月31日 |
| 算出根拠 | A: 紹介患者の数 | 14,359人 | |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 13,361人 | |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | 1,949人 | |
| | D: 初診の患者の数 | 30,030人 | |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

| | |
|---|---------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | (有) ・ 無 |
| <p>・ 指針の主な内容: 医療関係者それぞれが役割分担と責任のもと、連携したチーム医療を推進しインフォームドコンセントを基本として、安全かつ適切な医療の提供体制を確立することを目指して、次の諸規程を制定している。</p> <p>ア 医療安全推進規程 イ 医療事故発生時の対応マニュアル</p> | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 12 回 |
| <p>・ 活動の主な内容: 平成12年12月1日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月1回開催している。</p> <p>ア 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策や院内統一基準の制定 イ 医療安全推進部及びリスクマネージャー会議からの提案事項の審議 ウ 医療事故等の情報開示のあり方の検討 エ その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること</p> | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 11 回 |
| <p>・ 研修の主な内容: 平成21年度実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別講演「リスクマネージャーの役割とは」(4月) ・ 講演「安全な医療を提供するために/危険薬誤投与防止について」(5月)2日間 ・ 講演「せん妄について/せん妄の予防と診断治療について」(6月) ・ 外部講師による講演「医療メディエーションによるコンフリクト・マネジメント」(7月) ・ DVD研修「医療現場におけるコミュニケーション」(9月)2日間・6回上映 ・ トピックス研修「モニターのアラームと安全管理」(9月)2日間 ・ DVD研修「医療事故発生時の対応について」(10月)2日間・6回上映 ・ 講演「エラーをゼロにする究極の秘訣は？」(11月)2日間 ・ 講演「インスリン製剤と経口血糖降下薬/危険薬に関連するインシデント事例」 (12月)2日間 ・ DVD研修「みんなで考えよう医療事故防止対策！」(1月)4回上映 ・ 講演「さらなる医療の質向上をめざして」(3月) <p>平成22年度実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師による特別講演「医療安全と電子カルテについて」(5月) ・ 講演「医師の視点で捉える危険薬剤の取り扱い」(6月) ・ 講演「医療安全と腎機能評価について」(7月) ・ 外部講師によるCVC穿刺指導者講習会「超音波ガイド下中心静脈穿刺の理論と手技及び指導方法」(8月) ・ 講演「添付文書の読み方/3期システム移行後の疑義照会の内容」(9月)2日間 ・ 中堅研修(10月予定)2日間 ・ DVD研修(11月予定) ・ 新人研修(12月予定)2日間 ・ 特別研修(1月予定) ・ 外部講師による講演(2月予定) ・ 1年間の総括(3月予定) | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)</p> | |

・ その他の改善のための方策の主な内容:

医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の指導に努めている。

インシデントレポートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、リスクマネージャー会議を通じて、事例の共有と改善策を推進している。

医療安全推進部にAI事例検討会を設置し重要事例発生時は、迅速かつ集中的に分析検討することとしている。

更にアクシデントレポートは、医療安全推進委員会で改善策の検討協議を行うとともに、医療事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会での審議を求めている。また、医療事故調査委員会開催の必要性を審議するため、平成22年6月に医療安全審議会を設置した。

平成22年5月、電子カルテ導入に伴い、インシデントに関連した患者の状態について、より詳細で迅速な情報共有が可能となっている。

| | |
|---|-------------|
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 有(4 名) ・ 無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有(7 名) ・ 無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 有 ・ 無 |
| ・ 所属職員: 専任(4)名 兼任(9)名 | |
| ・ 活動の主な内容: ア 医療安全推進部の業務に関する企画立案及び評価 イ 医療安全に関する研修その他職員の意識向上に関する指導 ウ インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価 エ 医療安全推進委員会及び医療事故調査委員会の運営に必要な事務 オ 診察録及び看護記録等の記載事項の確認と指導 カ その他医療の安全推進に必要な業務全般 | |
| ⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じられる体制の確保状況 | 有 ・ 無 |

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有 ・ 無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容: 1 院内感染対策に関する基本的な考え方 2 院内感染対策のための組織に関する基本事項 3 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6 患者に対する当該指針閲覧に関する基本方針 7 その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針 | |
| ② 院内感染のための委員会の開催状況 | 年 11 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容: 1 感染症の予防に関すること 2 感染症予防対策の部門間調整に関すること 3 感染症に関連する検査報告、経過、原因の追跡調査及び整理分析に関すること 4 感染症予防対策実施の教育、計画、指導及び勧告に関すること | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 12 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容: 「針刺し、血液暴露防止」 (全職員対象) 「HIVコーディネーターナースとしての経験から」 「適切な血液培養と実施方法」 「外来における感染対策のポイントとインフルエンザ対策」 (職種別) 「リハビリにおける感染対策」 「分別廃棄に関する説明会」 「手指衛生について」 | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: <ul style="list-style-type: none"> ・ サーベイランスの実施 ・ 感染対策マニュアルの整備 ・ ICTwebの導入 ・ 医療情報システムによる情報共有 <ul style="list-style-type: none"> 各病棟の細菌検出状況レポート infection control news 無菌材料検出菌報告 ・ 院内巡回時のマニュアル遵守状況確認 | |

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | ○有 ・ 無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 3 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>①医師の視点で捉える危険薬剤の取扱いについて 平成22年6月3日 内容：循環器疾患と危険薬 講師：循環器内科 木村桂三 インスリン 講師：第一内科 古田浩人 抗がん剤 講師：腫瘍センター 上田弘樹</p> <p>②医療安全と腎機能評価 平成22年7月21日 内容：腎障害における禁忌薬について 講師：腎臓内科 重松隆</p> <p>③添付文書の読み方 平成22年9月13日・17日 内容：警告・禁忌など重要事項の解説 講師：GRM 江崎句子</p> | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| <p>・ 手順書の作成 (○有) ・ 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>業務手順チェックリストにより確認し、改善が必要と思われる業務については当該部署と相談し、適宜改善策を検討している。また、手順書についても適宜見直しを行っている。</p> | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品・医療機器安全情報、MRからの情報提供の他、インターネットを利用した情報収集を積極的に行い、入手した情報についてはDIニュース等を定期的に発行し周知を図っている。また、緊急を要するものについては別途文書配布により周知を図っている。</p> <p>また、通知文書を電子カルテシステムのポータルサイトに掲載すること（一部実施）や医師をはじめとする医療スタッフに院内メールで配信することを検討している</p> | |

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|---------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | ① 有 ・ 無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 2 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容: シリンジポンプ・輸液ポンプの安全な使用方法 除細動器の原理及び使用方法 呼吸器の原理及び使用方法 電気メスの原理及び使用方法 電源設備の安全な使用方法 人工心肺の原理及び使用方法 | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の作成 (① 有 ・ 無) ・ 保守点検の主な内容: 人工心肺・呼吸器・電気メス・除細動器・シリンジポンプ類などの制度及び電氣的安全点検 | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (① 有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: 臨床工学技士たよりによるインシデント報告 | |